

大徳  
高峯大鼓

八百六

2378  
242





福元真吉

皇極經世一  
歌川玉貞画  
上之三卷

元樓閣高峯古鼓

天保九

年の春

萬巻の巻

権



富士太鼓の謡曲其起原孰も書有歟所見也  
住吉郡浅澤の古くは伶人富士が旧跡なりと村民俚俗の言傳ふ  
其證詳なり曾て或書大系圖と引て曰  
花園院又奉称の御宇文保三年十月大嘗會の日正三位中将  
参議有時卿清暑堂神宴拍子不参仕る処陣中の中將  
人をもを討後日の相争と成る今夜拍子勤む紙屋川頭香  
卿の多ありと討りしと後不聞由されは是等と本據とててんぐんの  
謡曲を伝ふるや尚考案と待と云是は此冊子の趣向ふ与る事  
る糸と聊因あるとして序不換て爰不記まよあん

天保九年戊初陽

春廼屋梅磨



長史

花甲



渡守楯六  
 後  
 麻間之八  
 景連

知一の前妻  
 櫻戸



六波羅の政所  
 鳴澤の政所  
 住吉の樂工  
 知太郎  
 富士郎

多金屋  
妙閑が  
處女  
阿七



光棍  
愚火

比企が谷  
七重院の  
兒童桶三郎





白兵衛が妹針妙の阿相

富太夫と妻と 梅枝の娘



八百屋白兵衛

悪僧鞭超











そのつらさ...  
 あら...  
 や...  
 ま...  
 の...  
 川...  
 さら...

そのつらさ...  
 あら...  
 や...  
 ま...  
 の...  
 川...  
 さら...

そのつらさ...  
 あら...  
 や...  
 ま...  
 の...  
 川...  
 さら...



そのつらさ...  
 あら...  
 や...  
 ま...  
 の...  
 川...  
 さら...

そのつらさ...  
 あら...  
 や...  
 ま...  
 の...  
 川...  
 さら...

そのつらさ...  
 あら...  
 や...  
 ま...  
 の...  
 川...  
 さら...





此の薬は、いふほど年久病、赤もて、大人小児男女、  
 如き下包を、治る奇とやいふ妙とやいふ是、  
 徳人の如くに用ふる一人も治る、  
 のまゝめ、  
 なく、  
 めい、

梅磨作  
 美絶仙女香  
 黒油美玄香  
 百二、  
 京橋南、  
 坂本氏

國貞画



此の薬は、いふほど年久病、赤もて、大人小児男女、  
 如き下包を、治る奇とやいふ妙とやいふ是、  
 徳人の如くに用ふる一人も治る、  
 のまゝめ、  
 なく、  
 めい、

寐小便の大奇薬

包代銭三百銅

此の薬は、いふほど年久病、赤もて、大人小児男女、  
 如き下包を、治る奇とやいふ妙とやいふ是、  
 徳人の如くに用ふる一人も治る、  
 のまゝめ、  
 なく、  
 めい、

本家調合所

江戸中橋廣小路町  
 書物屋 北林堂 山宮弥兵衛

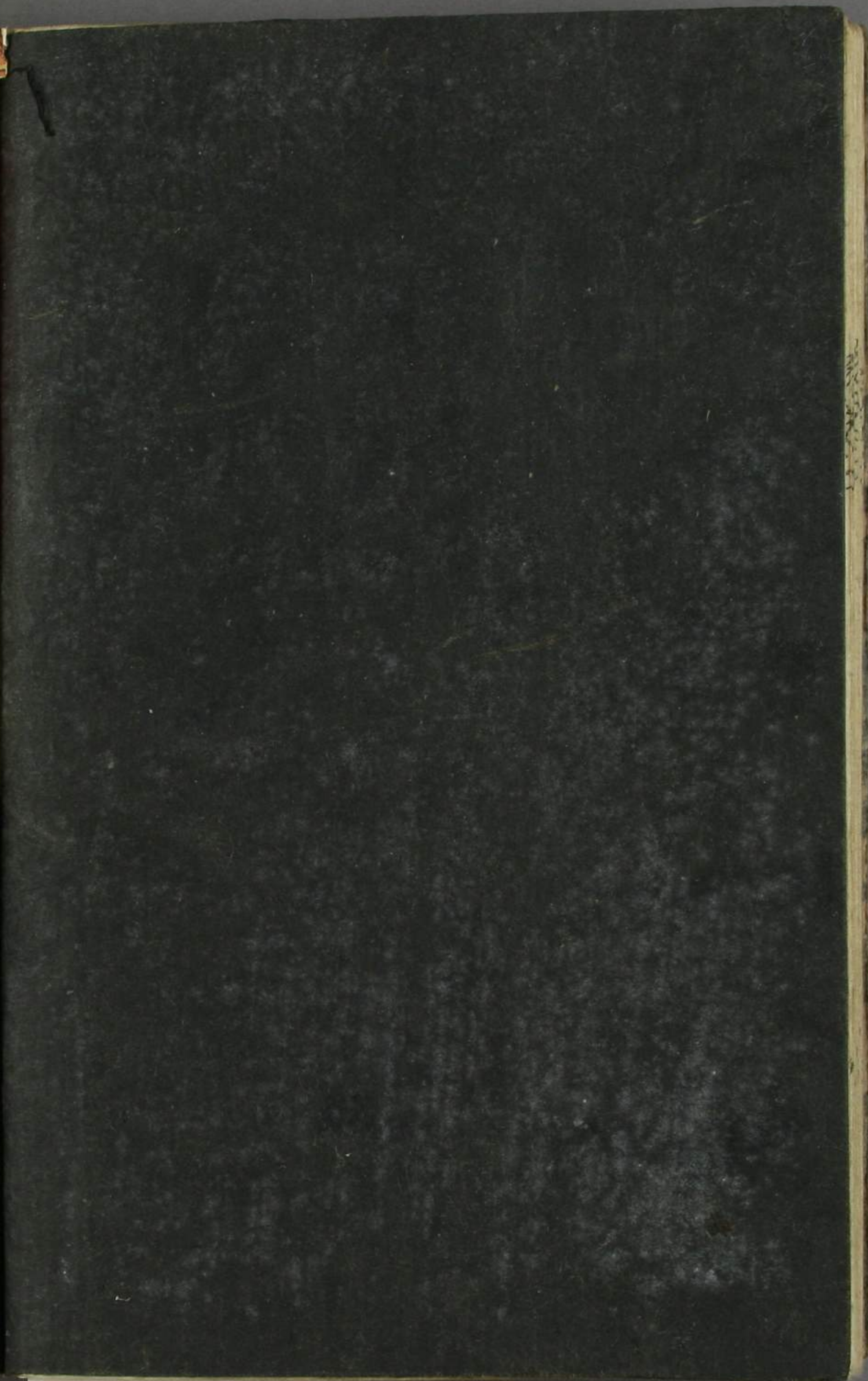


香蝶樓國負画

墨春亭梅磨作

中

香蝶樓國負画  
墨春亭梅磨作



梅よりうさく  
玉ふただきぎく

仲の

ひつら

高祿の身以志

成の志ん板 萬吉様



三

高祿の身以志... 成の志ん板... 萬吉様... 高祿の身以志... 成の志ん板... 萬吉様...



おまのぬけの井... 高祿の身以志... 成の志ん板... 萬吉様... 高祿の身以志... 成の志ん板... 萬吉様...













ついでにやがての  
 けのふとあつた  
 よりとあつた  
 おつとあつた  
 むふふとあつた  
 ろふふとあつた  
 あふふとあつた  
 ぷふふとあつた  
 ふふふとあつた  
 ぶふふとあつた  
 ぶふふとあつた  
 ふふふとあつた  
 ぶふふとあつた  
 ふふふとあつた  
 ぶふふとあつた  
 ふふふとあつた  
 ぶふふとあつた



ついでにやがての  
 けのふとあつた  
 よりとあつた  
 おつとあつた  
 むふふとあつた  
 ろふふとあつた  
 あふふとあつた  
 ぷふふとあつた  
 ふふふとあつた  
 ぶふふとあつた  
 ぶふふとあつた  
 ふふふとあつた  
 ぶふふとあつた  
 ふふふとあつた  
 ぶふふとあつた  
 ふふふとあつた  
 ぶふふとあつた













橘まの海作  
玉ト夕画

この図は橘まの海作の「玉ト夕画」の一場面を写したものである。右に立つのは橘まの海作本人で、左に立つのはその妻である。奥に居るのは橘まの海作の弟である。この図は橘まの海作の代表作の一つである。

本家江戸本町二丁目

白き長のうらんと  
のりたるをりせ

式亭三馬製



る江戸の名

文相代百文 小相代五十文 徳利後代二百文

御願の 吾妻番 桐 夏五斗 寒のちゆ製法まのちゆ製法

別製 御多押の

御懐中 ねぼまぬの 果げ 代 五斗



戊戌春新板

下



五

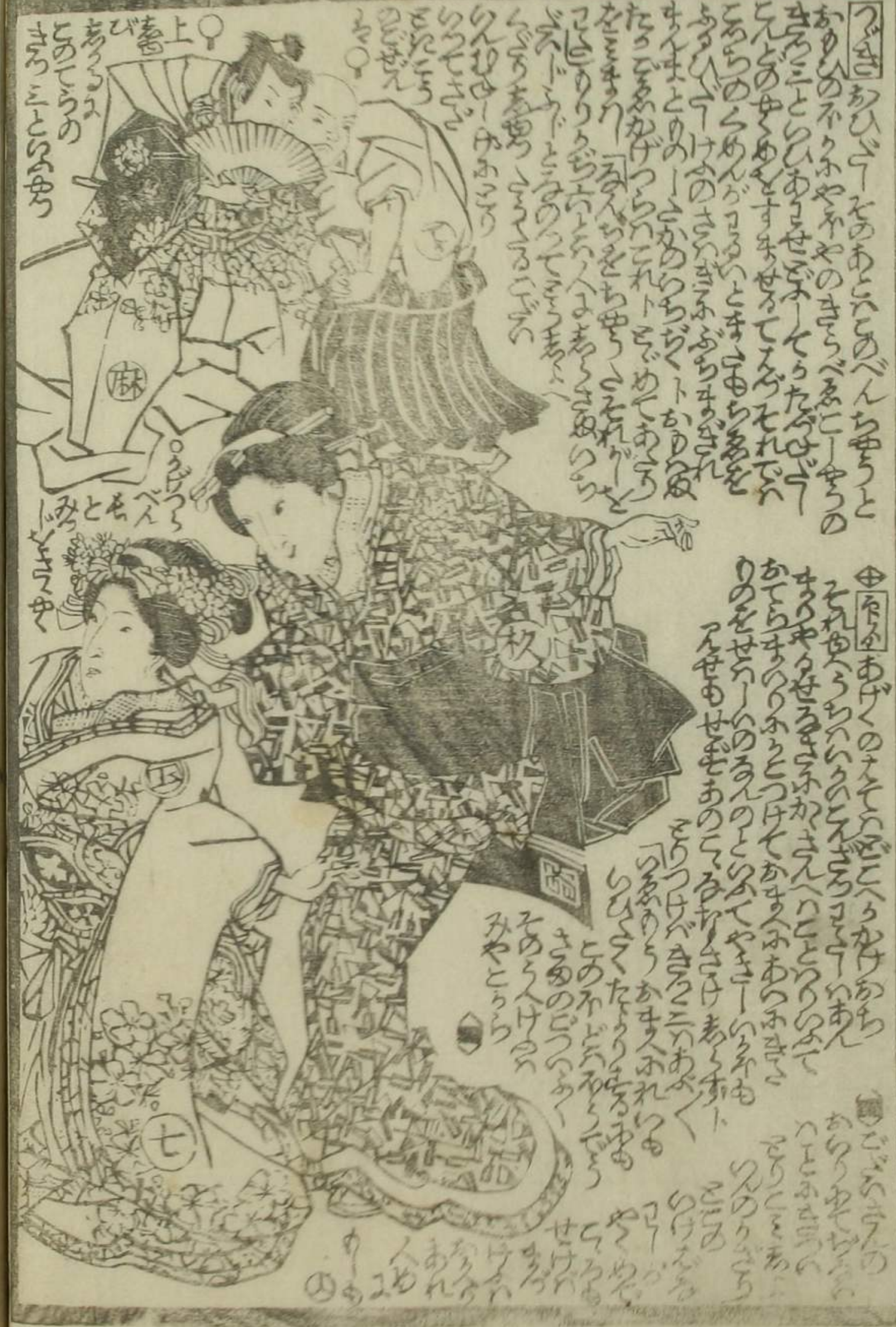


梅酒 下巻  
 國貞 画  
 多志楽 右鼓  
 中の 新板 律 妻 梓



Handwritten Japanese text columns on the left side of the top page, including the word 'MUSSE'.

Handwritten Japanese text columns on the right side of the top page, including the characters 'あはれ' and 'あはれ'.



Handwritten Japanese text columns on the left side of the bottom page, including the characters 'あはれ' and 'あはれ'.

Handwritten Japanese text columns on the right side of the bottom page, including the characters 'あはれ' and 'あはれ'.



三十一

三十二



三十三

三十四



















